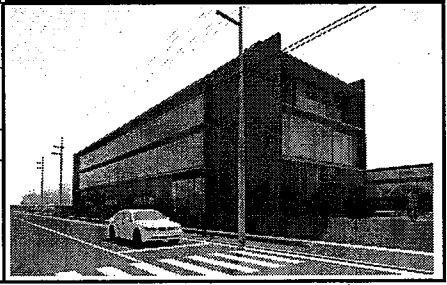


CASBEE® - 建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	ヤマウチメディア インベーションセン	階数	地上3F
建設地	京都府福知山市長田町2-62-1	構造	RC造
用途地域	工業専用地域, 法第22の指定区域	平均居住人員	110人
気候区分	5地域	年間使用時間	2,000時間/年
建物用途	事務所, 工場	評価の段階	竣工段階評価
竣工年	2016年10月 0.0	評価の実施日	2015年12月8日
敷地面積	20,000㎡	作成者	奥山広志
建築面積	948㎡	確認日	2015年12月10日
延床面積	2,541㎡	確認者	大平卓磨



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)
<p>BEE = 1.6 ★★★★★★☆☆</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★</p>	<p>★☆☆☆☆ 30% ☆☆☆☆☆ 60% ☆☆☆☆☆ 80% ☆☆☆☆☆ 100% ☆☆☆☆☆ 100%超</p> <p>標準計算</p> <p>①参照値 100% ②建築物の取組み 27% ③上記②以外の 26% ④上記+ 26%</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです</p>	

2-4 中項目の評価 (バーチャート)		
Q のスコア = 3.4		
Q1 室内環境 Q1のスコア = 3.6 音環境: 3.4, 温熱環境: 3.0, 光・視環境: 3.6, 空気質環境: 4.5	Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.6 機能性: 3.9, 耐用性: 3.0, 対応性: 3.8	Q3 室外環境 (敷地内) Q3のスコア = 3.0 生物環境: 3.0, まちなみ: 3.0, 地域性: 3.0
LR のスコア = 3.5		
LR1 エネルギー LR1のスコア = 3.1 建物外皮の: 3.0, 自然エネ: 4.0, 設備システ: 3.0, 効率的: 3.0	LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 3.8 水資源: 3.4, 非再生材料の: 3.9, 汚染物質: 4.3	LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.7 地球温暖化: 5.0, 地域環境: 3.2, 周辺環境: 3.0

3 設計上の配慮事項		
総合		その他
注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。		注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。
建物規模や外装により開放性の高い空間とし従業員的环境感受性を向上させる。運用エネルギーの削減と、材料等の更新性の長寿命化としている。		
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境 (敷地内)
注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。	注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。	注) 「Q3 室外環境 (敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。
輻射空調方式を採用し、気流の少ない空間及び温度むら	室内の可変性に考慮し、仕上げ材の容易な可変性や、電	植栽を配置、中間期等の外部での従業員の休息を促進さ
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。	注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。	注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。
省エネルギー機器の採用。自然エネルギーの活用。	仕上材の更新時期の長い材料選定、仕上げ材の簡略化	敷地外に与える騒音を基準以内に抑え、南面の日射による光害が発生しない方角を

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される